

年代	16世紀末*～18世紀半ば	1780年代	1790年代	1800年代	1810年代	1820年代	1830年代	1840年代	1850年代	1860年代	1870年代	1880年代	1890年代	1900年代	1910年代	1920年代
----	---------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

ファッション史上の時代区分	パロック・スタイル～ロココ・スタイル			エンパイア・スタイル			ロマンチック・スタイル			クリノリン・スタイル			バスル・スタイル			S字シルエット
---------------	--------------------	--	--	------------	--	--	-------------	--	--	------------	--	--	----------	--	--	---------

男性



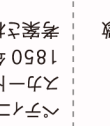
短いズボンにストッキング。
長ズボンは労働者階級のみ

長ズボン定着。黒を基調とし、 華美さよりも仕立ての良さを求めるように	
---------------------------------------	--

幼児期にはドレスで、 5～7歳になると短いズボンを着用		長ズボンを着用するようになる。 ズボンをはく年齢が3～4歳に下がる。 男児用つなぎ服のスケルトン・スーツ登場
--------------------------------	---	--

男の子

スケルトン・スーツ盛れる。様々な 上着とズボンを組み合わせて着用。 袖の形状は成人女性の 影響を受ける		短いズボンを はくようになる
--	---	-------------------

再びコルセットを締め スカートを大きく広げた スカートを大きく特徴 大きく膨らんだ袖が特徴 スタイルに ヘアコートを重ねて スカートを膨らませるスタイル。 1850年代に鋼鉄製クリノリンが 考案されフォーム過熱		こどもの影響で エプロンドレスが 流行
---	---	---------------------------

胸の後ろにボリュームを もたせたスタイル。 男性服のような仕立てや 暗い色調が流行 ref.7		胸と腰を強調した S字型のシルエット ref.8
---	---	--------------------------------

女性

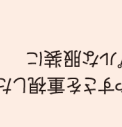
コルセットでウエストを締め パニエでスカートを膨らませる	
---------------------------------	---

コルセットを着用しない 古代ギリシア・ローマ風の 薄地のシュミーズ・ドレスが 広まる ref.3	
--	---

幼児期から成人女性と 同じスタイルで、コルセットも着用 シュミーズ風ドレス登場 ref.1	
--	---

再びおとなのスタイルの模倣へ。 ただしスカート丈は短く、 ドレスの下にパンタロンを着用 ref.5	
--	---

こもらしいファッションとして エプロンドレス流行 ref.18	
---------------------------------------	---

胸の横方向の切替線（ヨーク）から なだらかに広がるドレスが流行。 動きやすさを重視した シルエットを着用しなくなる ref.3	
---	---

西洋のこどもファッション年表

*中世までは服装で社会階層を示すことが重要であり、年齢による区分はなく、こども期に特有の服装をさせることは16世紀末からはじまったとされる。*本展で「こども」とは、幼児期から12.3歳前後を指す。
上記図版の番号は、展覧会カタログおよび展覧会場ファッションの番号と揃えてある。ref.1 男性用スーツ (ドレス・ウ・ブラウゼース) 1780年頃 ref.2 ドレス (ローマ・ブ・ウ・ブラウゼース) 1780年頃 3-3 『キヤリナー・デ・モート・エ・コスチューム・フランス』PL146 (部分) 1781年 個人蔵 (石山彰氏旧蔵) 3-9 『キヤリナー・デ・モート・エ・コスチューム・フランス』PL1323 (部分) 1787年 ref.3 シュミーズ・ドレス 1815年頃 6-5 『ジュルナル・デ・ブ・タム・エ・デ・モート』PL2415 (部分) 1826年 個人蔵 6-7 『ジュルナル・デ・ブ・タム・エ・デ・モート』PL3151 (部分) 1834年 個人蔵 6-9 『ジュルナル・デ・ブ・タム・エ・デ・モート』PL3369 (部分) 1836年 個人蔵 18 女児用ブラウゼース・ドレス 1860年代 藤田真理子氏蔵 29-3 『ラ・トゥレット・デ・サン・フランソワ』(プレート番号不明・部分) 1870年代後半～1880年代初頭 個人蔵(石山彰氏旧蔵) 29-2 『ラ・トゥレット・デ・サン・フランソワ』PL1340 (部分) 1870年代後半～1880年代初頭 個人蔵 (石山彰氏旧蔵) ref.7 ブライ・ドレス 1880年代 ref.8 シャック・ブラウゼ 1890年代後半 69 ポール・ボワシ 男児用スーツ 1916年 ポール・アレキサンダー氏蔵 所蔵表記のないものに関しては、東京家政大学服装史研究室蔵

会場案内

Exhibition Guide

こどもとファッション

— 小さい人たちへの眼差し —

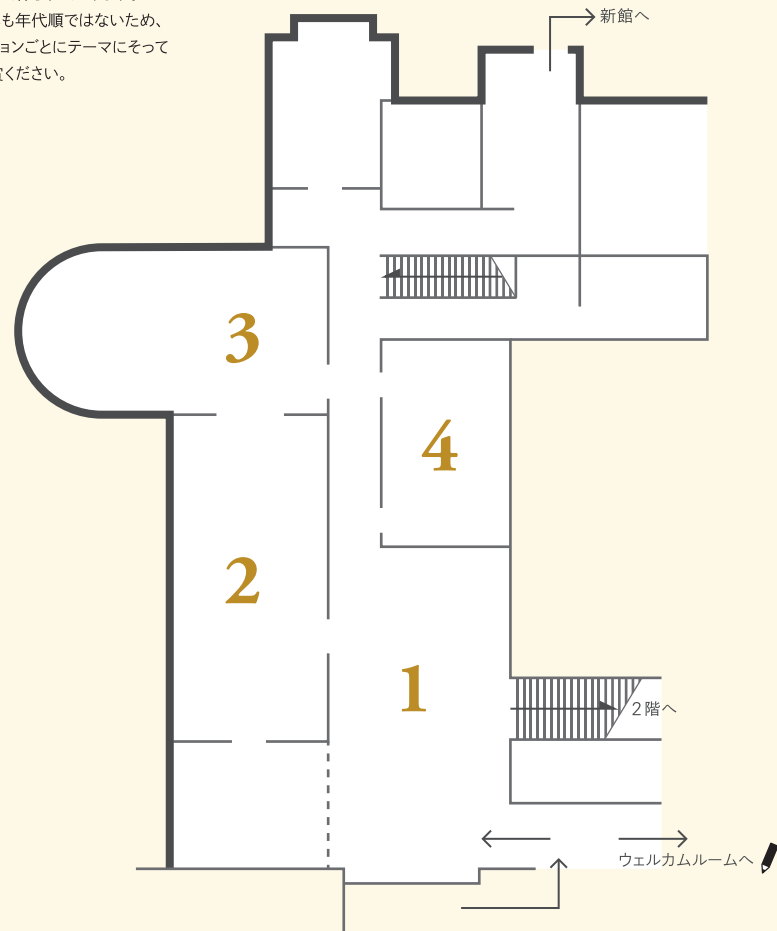
2016年7月16日～8月31日
東京都庭園美術館



*本展ではご所蔵者のご厚意によりケースに入れない露出展示を取り入れている部分もございます。貴重な資料を後世に伝えるため、お手を触れないようにお願いいたします。
*東京都庭園美術館は、重要文化財・旧朝香宮邸(1933年竣工)というもともと住宅であった空間を展示室としています。本館では階段以外の壁・扉・柱などには触れないでください。

当館における展示構成は、
展示室の意匠や物理的な諸条件を
考慮して作られております。
必ずしも年代順ではないため、
セクションごとにテーマにそって
ご鑑賞ください。

本館 1 階



 **ウェルカムルーム /**
フォトプロップや塗り絵などで遊べるコーナーや、こども観に関連する書籍の閲覧コーナーなど、展覧会をより深く楽しむためのお部屋です。

本館 1 階 / 西洋



1 こども服の示すこと
ほんの100年前まで、西洋の上流階級では男の子も女の子も小さな頃はドレスを着ていました。男の子はズボンをはく年齢になるまでは「こども」ですが、女の子は大人と同じ様にコルセットを着けて徐々に「おとな」になっていきます。
この展覧会では、その社会がこどもという存在をどう捉えていたのか(=こども観)を、こども服を通して読み解いていきます。

2 1800～1880年代
小さな大人たち

3 1910～1920年代
先駆ける こども服

4 ファッション・プレートの世界
同時代の流行ファッションを伝えるために発行されたファッション・プレートは、服飾史研究にとって貴重な資料となっています。表情やポーズなどこどもの描き方も、18世紀と今ではずいぶん異なるようです。

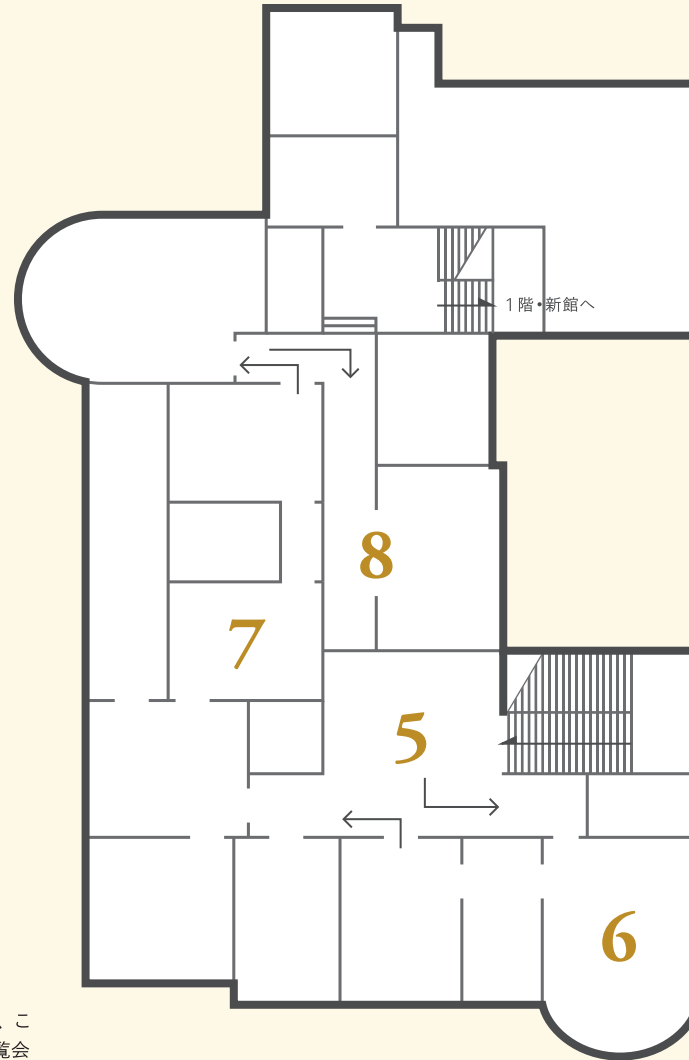
本館 2 階 / 日本



5 明治時代
「学校」と「家庭」の誕生

6 大正時代
洋装への憧れ

本館 2 階



intermezzo 間奏曲



8 こどもの不在
ここでは、こども服をモチーフとした現代美術の作品をご紹介します。古着のこども服を撮影した写真作品と、顔のないボディによそ行きのこども服を着せたインスタレーション。こどもの姿はありませんが、私たちがこどもという存在をどう見ているかを照射する2点です。

新館ギャラリー 1 / 西洋



9 1730～1780年代
〈こども服〉の誕生

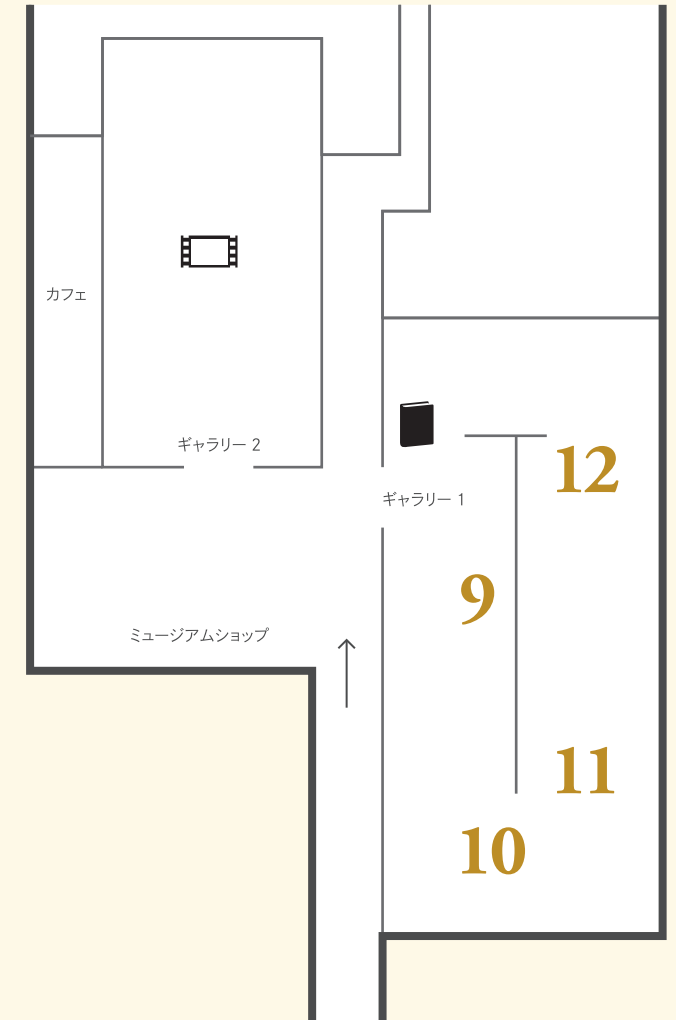
10 1870～1890年代
こども礼賛

11 1890～1920年代
こどもの解放

本の閲覧コーナー /

展示されている絵本や雑誌など出版物の復刻版を閲覧できるコーナーです。
キャプションに  マークがあるものはこちらでご覧いただけます。

新館



新館ギャラリー 1 / 日本



12 大正時代から昭和時代前期
洋服の一般化

映像上映 /

こども観や家族観は、社会によって異なります。展覧会で紹介しているのは西洋と日本の近代のみですが、ここではアフリカ、南米、オセアニアにおける子育てやこどもの遊びの様子を見て、こども観の多様性の一端に触れます。